

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	夏の靈感 : 歌
Author(s)	小川, 久雄; [オガワ, ヒサオ]
Citation	龍南, 178: 136-137
Issue date	1921-07-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7803
Right	

夏の靈感

小川久雄

高野山にて

たそがるる水無月みなづきぞらの雲あかり山の青葉はに映はわてさびしも
 うちなびくたそがれ雲の仄おぼあかり道の佛の面おもにあふるる
 杉若葉下てる路の夕かげに石のほどけはさびしげに立つ
 たそがれの雲うつくしと見とれる心やすらにくつろぎにけり
 草の穂ほにのこる陽ひもなく暮れしつむこの山はらに鐘なり渡る
 向むかつ嶺ねに立ちのみちかき杉林あさざりこめてかくろひにけり
 うつすらと草の穂を染め明けにける空に光れる星のありけり
 朝雲は朱あじをふくみてわが山の空をゆるかに流れゆくなり
 つつましく草々の葉のゆらぐ見ゆ朝の心に悔ひつつ居れば
 山も暮れ空も暮れぬれど木蔭なる佛の肌はだはほのかなるかも
 草そよぐ夕細道をあよみつゝわが現し身を愛をしとおもへり

夕あかり仄にただよふ窓さきの庭の砂ごはさびしく匂ふ
 法師せみ春戸^せべに來鳴く夕近みそぞろに妻を欲^ほしと思へり
 死人焼く煙ほろ／＼山腹ゆ立ちのぼる見ゆ空暮れにつゝ
 おのづから日の暮れ沈み向ふ山の死人焼く火はほろ／＼と燃ゆ
 谿底^{たにそこ}のなかばは氷にひたりたる岩に陽のてり明るさま晝
 鶴^{いたたき} 鶴さびたる岩の影にゐて尾をふれる見ゆ谿まあかるく
 細り月牙^さにしづまりてしとりたる櫻の若葉ゆらめきて見ゆ
 見はるかす熊野の山のかたぞらに白き雲湧き夏らしきかも

法隆寺にて

しみ／＼と心なごみてみ佛のひそまりませるみ堂めぐるも
 静けさに集^{あひ}ひの中にわれありて心ひそまりうつしけなくに
 さまざまのみ佛たちの並^なみませるみ堂ほのかに晝明りせり
 痛ましく色あせませるみ佛のやさしき瞳^{まみ}の光ひそけし
 天地^{あめち}をゆびさしませるみ佛の細れるすがた見ればよろしも
 金堂^{こんだう}にしましひそまりいわけなく心はなごみ經となへけり
 そのかみの人のいのちはかがやきて凝^こりのこりけんこれのみ堂に
 かまだらにはげし壁畫^{へきが}にたまきはるいのちこもらひ光れるかこれ